

会員の広場



会員総会への出席のすすめ

山本 建治（東京）

経済倶楽部では、日本の財政赤字をテーマにした講演があったり、物申す会でもこれをテーマに活発な議論を行ったりしています。国家の財政赤字について関心が深いのは会員の意識レベルが高い証でありましょう。

しかし一方、経済倶楽部自体の財政がピン

チであることをご承知の会員の方は少ないのではありませんか。

経済倶楽部では年一回、毎年5月に定例の会員総会が開かれています。年度の収支報告および財政状況（会社で言えば貸借対照表）が全会員に送付され、総会では理事長から詳細説明もあります。しかし、この総会に参加している会員は何人いるでしょうか。現在、約650名の会員がいますが、役員も含め出席者は30〜40名です。ということで、会員のほとんどは経済倶楽部の財政状況についてきちんと認識されていないことでしょう。

倶楽部の年度収支は赤字基調が続いており、かつて余裕のあった正味財産も食い潰されつつあります。ここでは基本的な数字だけ申し

上げますと、10年前には繰越金が3287万円あったものが、2013年度末には1227万円に減少しています。

この4月（2014年度）から会費の値上げが実施されましたが、今年度の収支をとんとんにする想定で、依然として倶楽部財政は厳しい状態が続くと思われま

す。倶楽部の収支が赤字になっていった原因は何か。長期的には当倶楽部の法人会員が減少したからです。バブル経済崩壊以降、企業の経費削減に伴い法人会員が減り、近年は横ばいが精一杯のようです。ですから個人会員を増やしていくことがこれからの基本でしょう。私は、倶楽部が運営資金の不足により、活動が縮小していくことを恐れます。倶楽部の活

動が現在よりも低いレベルになることを望みません。

さて、こうした状況のなかで、会員の皆さんにお願いがあります。まずは5月に開かれる会員総会にご出席いただき、倶楽部の財政の現状を知っていただくことです。そのうえで、解決にいたる具体的なアイデアがあれば、開陳いただきたく思います。

さらにもう一つ、私の個人的意見ですが、倶楽部の財政がそれだけ厳しいのなら、会員有志から寄付を集めることを考えてはいかがか。経済倶楽部は組織として一般社団法人ですから、会員の会費で収支を賄うというのが筋でしょうが、強制ではなく会員有志が寄付することもありうる選択肢だと思います。